

“全国アマモサミット 2018in 阪南” 大会宣言

ここ、大阪・阪南には、人々の暮らしのすぐそば・程よい近さに森里川海があります。そして人々は、これらの豊かさや恵みを日々感じながら、暮らしています。

それは例えば、古くは土佐日記に詠われているように、また、今も市の歌や校歌にも、森里川海が歌われていることにみることができます。そこには、はだしで行ける浜があり、おいしい魚や多様な生き物がいます。阪南の地先には豊かなアマモ場が広がっています。研究者は、そこに守るべき多様性と可能性そして価値を見出しています。

また、男里川・山中川など川の上流・中流・河口干潟には多様な生き物が棲んでいます。和泉山脈の伏流水が海岸近くに湧き出る清水大師、せんなん里海公園なども、森里川海のつながり、また、森里川海と人とのつながりを感じることができるものです。

大阪湾の環境は改変され、自然が失われてきました。ここ阪南にある豊かさや恵みは、あたりまえにあるのではなく、自然と共に営みを紡いできた人々が様々な活動を通じ、守り、育ててきたものです。

それは例えば、大阪府下唯一の、のり加工業などの漁業や水産加工業、また、この地の成り立ちである14村をルーツとする、ものづくりへの心を尊重し、技を継承する、「阪南ブランド14匠」などに、その姿をみつけることができます。

子どもたち若者たちは、アマモや海の環境を守るための5つのヒントを考えました。自分たちが行動することの面白さや責任を感じ、大切なことを伝えていきたいと思っています。

環境を守り、伝統を引き継ぎ、地域の振興を図るために、今、皆が動き出さなければなりません。

私たちは、この大会を通じ、様々な人々の話を聴き、感じることができました。

私たちは、私たちに何ができるか、どうすればいいか。それを考え、話しました。

今あるものを守ること、今の動きを育てること、新しくつくること。それらは一朝一夕にできることではなく、課題ややるべきことは五万とあります。

それでも、私たちには、5つのヒントがあります。私たちには、50,000の家族がいます。そして、それを応援し、支えてくださる全国の仲間がいます。

私たちは、平成時代有終の秋、ここ、阪南の地での“全国アマモサミット 2018in 阪南”の開催を契機として、

1. 一人ひとり、この地の豊かさや恵みの‘守り隊’である自覚を持って、一人ひとりが、‘きづこら・うごこら・つなごら’を合言葉に、この地の豊かさや恵みを伝える・広めていく
1. 子どもたちは、みんなで阪南の森里川海で遊び、支えてくれる地域の人々や友達・先輩・後輩が共に体験・経験したことからさらに学びを深め、大人になっても忘れず、できることを実行していく
1. 地域で暮らし、働く全ての大人たちは、子どもたちが体験・経験できるように、その手助けを続けていく
1. 漁業者は営みの主体者として、おいしい魚介を漁（すなど）り、ノリ・ワカメ・コンブなどを育て、海の幸を食べる文化を支えていく
1. 産業界はこの地のブランド力を高める者として、それぞれの活動を発展させ、伝統の技術を次の世代に継承していく
1. 研究者は、アマモ場の再生を進める研究とともに、それとカキの養殖を両立させる手法など、環境保全と地域振興を共存させる道筋について検討を進めていく
1. 行政は、様々な人々がみんなで動けるように、下支えや仕組みづくりを考え、これからは森里川海をまちづくりの根幹としていく

ことを、約束しました。

この地をまた皆さんに訪れていただいたとき、「あのときの約束は、こういうことだったんだな。」と皆さんに感じていただけるよう、わたしたちは、‘きづき’を忘れず、‘うごく’を育て、‘つなぐ’をつくっていきます。



平成 30(2018)年 11 月 4 日

全国アマモサミット 2018in 阪南 参加者一同

全国アマモサミット 2018in 阪南 実行委員会一同

大阪・阪南の地にて